

ほっとeye通信

13号

平成27年5月 発行



～開院25周年を迎えて～

大塚眼科は平成2年3月に開業し、今年の3月で25周年を迎えました。開院当初より白内障手術に力を注いできましたが、その手術件数も平成25年には3万件を超えました。白内障手術装置も2～4年毎に最新のものに変えていき、平成23年には1.8mmという世界最小の切開幅で眼内レンズを挿入できる手術装置、ステラリス（ボシュロム社）を7台目として導入しました。切開幅が極小なので術後の角膜惹起乱視がほとんど出ないため、術後は安定した裸眼視力（1.0～1.5）が出ます。

眼科診療において開業当初と大きく変わった点は、医療機器のめざましい発展です。平成20年に導入したOCT（光干渉断層計）は網膜断層の10層構造が手に取るように分かり、肉眼では見えなかった原因不明の病態がOCTによって解明されるようになりました。また、緑内障もOCTにより自覚症状が出現する前に眼底に初期変化を見つけることができるようになりました。これは、画期的なことで、緑内障の診療を大きく変えました。今年、OCTはさらにバージョンアップし網膜の表層、深層、外層や脈絡膜内層のそれぞれの血流を、造影剤を使用しないで撮影できるOCT angiography（OCT5000、ツァイス社）が登場しました。当院には本邦第1号として今年3月に導入されました。造影剤によるアレルギーやショックなどの副作用もなく非侵襲的な検査なので大変期待ができます。

平成24年に導入された超広角走査レーザー検眼鏡「オプトス」は無散瞳（瞳を開かない）で眼底周辺まで撮影でき、多くの眼病変が短時間で発見できるようになりました。散瞳すると縮瞳するまでに4～5時間かかるので、その間患者様はボーと見え、読書や車の運転ができません。「オプトス」は患者様にとっても私達眼科医にとっても大きな福音となりました。

この25年間を振り返ってみますと、開業当初8名だったスタッフは現在39名となり、そのうち4名は開業当時のスタッフで当院の中心的役割を担っています。15年以上勤務しているスタッフが約半数います。現在のスタッフは私にとって理想のスタッフです。

今年の4月から私が常々考えていたフロアマネージャーを午前中のみ外来に配置しました。混雑した外来の患者様を隅から隅まで注意深く見渡し困っている患者様や初診で何も分からない患者様のサポートをしています。このフロアマネージャーの制度はできる限り続けたいと考えています。

「すべては患者様のために」を合言葉にやってきました私達ですが、大分にいて最高レベルの眼科医療が受けられるように、これからもスタッフ一同頑張っていきたいと思っています。今後ともよろしくお願い申し上げます。



院長 大塚 慎一

院長 大塚慎一 記



【スタッフ一同】医師2名、事務8名、看護師12名、視能訓練士10名、検査6名

成人失明の原因「糖尿病網膜症」

糖尿病黄斑症について

糖尿病網膜症において、視力を司る最も重要な部分である黄斑に病変が出現すると著しい視力低下をきたします。黄斑に生じた糖尿病網膜症を**糖尿病黄斑症**と言います。

黄斑に生じる病変には、浮腫や虚血、硬性白斑の沈着、萎縮、その他硝子体の牽引などがあります。最も頻度の高いものが**黄斑浮腫**で、これは治療の対象となります。

糖尿病黄斑浮腫（以下**DME**）は糖尿病網膜症のどの段階でも発症するため罹患率が高く、糖尿病網膜症患者の20～30%に合併します。DMEは増殖糖尿病網膜症のような失明に至ることはありませんが、就労年齢層において失業や運転免許の喪失といった社会的問題を引き起こす大きな視力障害の原因となります。

【DMEの病態】

DMEの病態は、網膜血管透過性が異常に亢進し、黄斑に浸出液が貯留する状態です。元来、網膜では血流と網膜の間には選択的輸送を行うバリアが存在し、血管透過性が調節されています。すなわち、網膜には血管内の有害物質が網膜組織内に移行するのを防ぐ**血液網膜関門**というのがあります。これを担っているのが網膜血管内皮細胞と網膜色素上皮細胞です。両細胞とも細胞間には密着結合(tight junction)が存在し、バリアとしての働きをしています。一方、脈絡膜血管の内皮細胞には密着結合がないため、かなり自由に血管内から物質が透過します。

糖尿病では高血糖の影響によりバリア機能が障害されると血管透過性が亢進し、網膜血管内皮細胞においては網膜血管から血漿成分が流出し網膜内に浮腫を生じ、血漿蛋白や脂質の沈着（硬性白斑）をきたし（**図1の③**）、網膜色素上皮細胞においては脈絡膜からの浸出液が網膜内に流入してきます（**図1の④**）。

また、一方で視細胞の代謝に重要な役割を担っている網膜色素上皮細胞は、網膜下腔に貯まった

浸出液をくみ出すポンプ作用をもっていますが、この網膜色素上皮細胞の機能低下により、ポンプ作用の低下をまねき網膜下腔には水がたまりま（**図1の⑤**）。

【血管内皮増殖因子（VEGF）について】

近年、網膜血管透過性亢進の原因物質として**血管内皮増殖因子（VEGF）**などが重要であることが明らかとなりました。VEGFは血管透過性因子とも呼ばれ、ヒスタミンの約5万倍の強い透過性亢進作用を有しています。網膜の虚血、低酸素状態で著しく産生されます。従って蛍光眼底造影で無灌流領域が発生するような進行した糖尿病網膜症ではVEGF産生は著明に亢進しています。

【硝子体の関与】

網膜の黄斑は生理的に硝子体との癒着が強いところです。黄斑前の後部硝子体膜の収縮による接線方向の牽引（**図2のa**）や、網膜内面に沿って弧状であったものが、ぴんと張った状態の弦のようになろうとするため、前方への牽引（**図2のb**）も発生します。近年、黄斑浮腫の悪化要因の1つに黄斑前硝子体牽引（**図1の①**）の関与が明らかとなりました。硝子体手術で黄斑前にある肥厚した後部硝子体膜を除去し、牽引を解除すれば黄斑浮腫が改善する例があることが報告されています。

糖尿病網膜症眼の硝子体のゲルの中には高密度のVEGFや炎症性サイトカインなどが貯留しており（**図1の②**）、これらの物質もDMEの原因となります。

糖尿病と診断されて10年で、14%の患者にDMEが発症するという報告があります。日常外来診療においてもDMEは決して少なくありません。発症にもいろんな要因が絡んでいるため治療に抵抗するDMEもあります。近年、DMEは多くの眼科学会でも取り上げられ盛んに議論されています。次回は、DMEの治療についてお話しします。

院長 大塚慎一 記

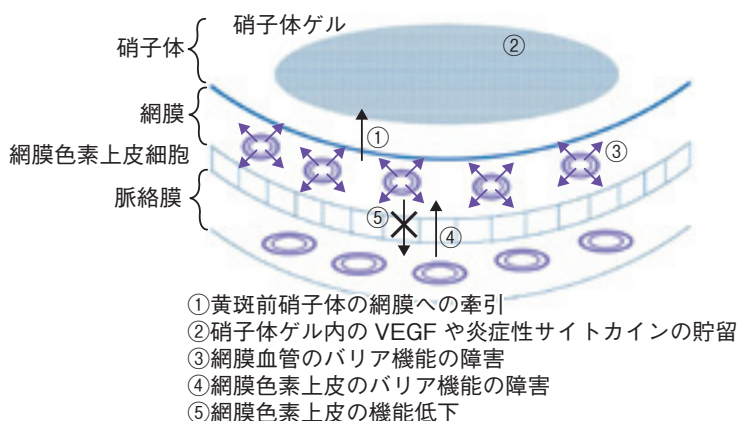


図1 糖尿病黄斑浮腫の発生機序

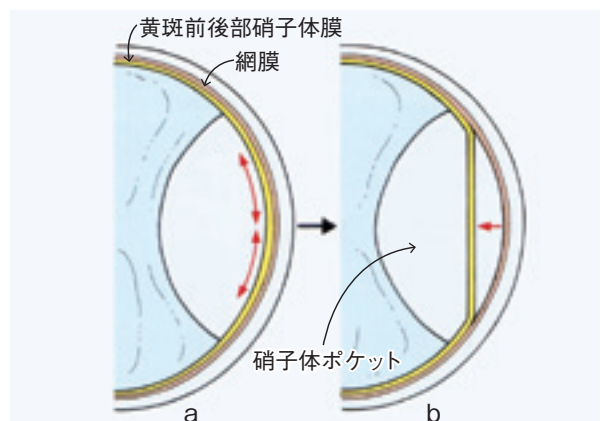


図2 黄斑前硝子体による網膜牽引

講演発表

平成27年2月21日(土)、当院、視能訓練士の後藤が山口県周南市で開催された、眼科医とスタッフの勉強会『きららオフクラブ2015』で60分の特別講演を行ないました。

〈本人のコメント〉

周南市(徳山市と周辺市町村合併で人口15万人)の広田眼科院長、広田篤先生が主催されている会で、毎回著名な先生方が講演される伝統ある会です。当日は眼科医とスタッフ合わせて60名近い参加がありました。今回は『問診や検査から考える診断に役立つOCT(眼科特殊検査)撮影テクニック』というテーマで、当院院長の理念でもある『的確な診療には検査技術の向上が不可欠』という教をスライドに込めました。とても反響が大きく、実践的な質問を沢山頂きました。周南市の眼科検査レベルアップに繋がり最終的には患者様のためになればと感じました。



平成27年1月24日(土)山口にて、第1回GSC(眼科スタッフカンファレンス)が開催され、当院の視能訓練士、本幡が発表しました。

〈本人のコメント〉

GSC(眼科スタッフカンファレンス)は、眼科医師とスタッフ間の技術・知識向上を目的とした会で、瀬戸内海周辺の7つの眼科が集まり開催されました。

それぞれの地域で活躍されている他施設の話を聞き、良い刺激となりました。

そのような中、超広角走査レーザー検眼鏡「オプトス」について発表させていただき、緊張しましたが大変貴重な経験となりました。

これからも日々勉強し、知識と興味を広げ、今後の診療に活かしていきたいと思います。



平成27年 当院の学会参加一覧(1月~4月)

1/17(土)	大分ROCK阻害薬発売記念講演会(大分)	3名
1/24(土)	第1回GSC(山口)	7名
2/7(土)	第3回大分糖尿病眼合併症セミナー(大分)	2名
2/14(土)	おっしょい眼科手術の会(福岡)	2名

2/21(土)	第31回大分大学眼科研究会(大分)	3名
3/14(土)~3/15(日)	生涯教育講座(福岡)	8名
3/28(土)	第5回豊の国眼科フォーラム(大分)	10名
4/16(木)~4/19(日)	第119回日本眼科学会(北海道)	5名

各専門医 日程

当院では全国より各分野の専門の先生を招いて診療や手術を行っています。専門医診療・手術は早い時期で予約が埋まってくるので、診療や手術をご希望の方は、スタッフまでご連絡ください。

5月	6月	7月	8月
9日(土) 硝子体手術 東京女子医科大学 教授 飯田先生	6日(土) 眼瞼手術 京都府立医科大学 渡辺先生	10日(金) 糖尿病網膜症外来 東京大学 准教授 加藤先生	1日(土) 涙道内視鏡手術 (岡山) すぎもと眼科 院長 杉本先生
22日(金) 硝子体手術 (福岡) 林眼科病院 副院長 吉村先生	13日(土) 硝子体手術 大阪労災病院 副院長 恵美先生	18日(土) 眼瞼手術 (横浜) 岡田眼科 副院長 宮田先生	8日(土) 眼瞼手術 京都府立医科大学 渡辺先生
30日(土) 涙道内視鏡手術 (岡山) すぎもと眼科 院長 杉本先生	16日(火) 眼瞼手術 (横浜) 岡田眼科 副院長 宮田先生	31日(金) 硝子体手術 東京女子医科大学 教授 飯田先生	22日(土) 硝子体手術 大阪労災病院 副院長 恵美先生
	27日(土) 緑内障手術 東京大学 教授 相原先生		

専門医紹介 13

東京大学医学部 眼科教授
相原先生



今回ご紹介する先生は、東京大学医学部 眼科教授の相原先生です。専門分野は緑内障で、臨床へ直結した基礎研究とともに積極的な手術治療も行なわれ、日本の緑内障診療におけるオピニオンリーダーです。3ヵ月毎に当院へお越し頂き、治療が難しい緑内障患者様の手術と診療を担当して頂いております。スピーディーな手術と的確な治療薬の選択で、当院の緑内障患者様も現在の視機能を維持できています。スタッフが緑内障の理解を深めるために、院内講演も行なっております。

新 入 社 員 紹 介



(受付) 上杉

春から受付として大塚眼科の一員になりました、上杉です。

先輩方を見習って患者様の不安な気持ちを少しでも軽減できるような丁寧な対応をしていきたいと思っています。

これからよろしくお願いします。



(看護師) 首藤

4月より勤務させて頂いています看護師の首藤です。

勤務初日より、スタッフ全員が患者様に対してだけではなく、スタッフ間でも親切丁寧に対応している事に感銘を受けました。

先輩達をお手本に、患者様が安心して診察を受けて頂ける様日々努力していきます。

診療時間の案内

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00 ～ 12:30	大塚 中野	大塚 中野	大塚 中野	大塚 中野	大塚 中野	大塚 中野
午後 14:00 ～ 18:00	中野	中野	中野 野田 (予約制)	午後 休診	中野	午後 休診
手術日 (午後)	白内障	白内障	白内障	—	翼状片 眼瞼下垂 内反症	—



※専門医による硝子体手術・緑内障手術・眼瞼手術・涙道手術は随時行っています。

※受付時間は午前7:30～午後5:00までです。

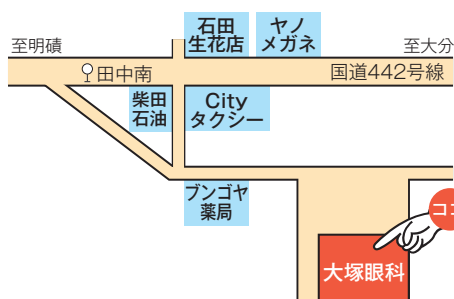
※コンタクトレンズの作製は、予約制となっております。事前に電話にて御予約をお願い致します。

※中野先生の診療は午前10:00からとなります。

ホームページ紹介



大塚眼科のホームページには院長の挨拶をはじめ、診療時間の案内・手術案内や、交通アクセスなどが掲載されています。



広報部編集委員

井上
氏川
野崎
小野
本幡

大分市 大塚眼科

検索

インターネットにて検索してみてください

ケータイはこちら

大塚眼科モバイルサイト

